

「宮澤・レーン冤罪事件の再来を許すな」の幟をかかげ

## 共謀罪廃止・安倍政権打倒へ力強く

「えんれい草」グループの活動報告……伊藤 陽一

### 「えんれい草」グループの結成と活動

「えんれい草」グループは、2012年の日比谷野外音楽堂の反原発集会で顔をあわせた北大経済学部と同じゼミの同学年2人(1991年卒)と5年、10年の差のある2人の4人で結成した。以後、首都圏反原発連合(反原連)主催の毎週金曜日夜の官邸前抗議運動、代々木公園その他での大規模集会に参加してきた。金曜行動はこの7月14日で、255回目となり、私たち(全員あるいは分担)の参加は225回目になった。脱・反原発の大集会には知人・友人に参加を呼びかけている。

4人は、2013年7月から「仮題・原子力発電所問題検討ニュースレター」を、2~3か月間隔で発行をはじめ、2015年4月11日の号外でタイトルを「えんれい草」と変え、2017年5月16日にNo. 16を発行した(2015年には号外を5号まで出した)。この編集者4人を「えんれい草」グループと自称しているのである。

### 宮澤・レーン・スパイ冤罪事件との出会い

2013年1月、札幌で結成された「北大生・宮澤弘幸『スパイ冤罪事件』の真相を広める会」(以下「真相を広める会」)が、2月23日に新宿・常圓寺で開催した「宮澤弘幸追悼・顕彰 秘密保全法を考えるつどい」に参加した。グループのうち3人はレーン先生の英会話授業を受けながら、「宮澤・レーン・スパイ冤罪事件」は、つゆ知らずにいたし、残り1人も知らないでいた。

「つどい」に参加して、この事件の真相を知り、折りから高まっていた秘密保護法策動阻止のためにも、北大OBとして、脱原発運動と同様に重要なテーマだと受け止め、早速会員になると同時に、同会発行のパンフレットの宣伝・販売に協力してきた。

「真相を広める会」は、2015年8月、宮澤弘幸・レーン先生の写真を掲載して「宮澤・レーン『スパイ冤罪事件』の再来を許すな! 戦争への道を許さない!」と書いた幟を作成し、札幌と東京に各2本配置した。東京では1本を事務局の千代田区労協におき、もう1本は、「真相を広める会」会員でもある北大OBの私たちグループが譲り受けた。



### 主要な集会・行動に幟をたてて……

私たちグループは、2015年から幟をたてて各種集会に参加してきた。宮澤弘幸を犠牲にした一妹の秋間美江子さんがその阻止を私たちに望んだ一戦時体制や機密・治安立法。この再来を許さない闘いに、宮澤弘幸と共に参加しようという思いを抱いてである。

この半年をふりかえっても、代々木公園のNo. Nuke、集会、東京有明の憲法記念集会、日比谷野外音楽堂での沖縄連帯集会、そしてそれぞれでのデモ(パレード)、共謀罪法反対の国会包囲集会や国会正門前集会、共謀罪法強行採決の可能性が高まった中での日比谷野音集会とデモ、議員会館前抗議等々である。

このうち代々木公園からのデモは渋谷駅を経て宮下公園に至るコース、日比谷野音後のデモは、外堀通りを、数寄屋橋を経て西銀座に至るコースなど東京の繁華街の一角を進んだ。これらには北海道からの知人も参加することがあった。(2面へつづく)



### (1面から)

「真相を広める会」の千代田区労協メンバーは、関連労組や地元の九条の会グループとともに参加していることが多かった。「えんれい草」グループの幟ともう1本の幟とは憲法記念集会や議員会館前行動、日比谷野音で一緒したこともあった。

この幟は、そこに盛り込まれた写真とストーリー性と配色の妙によって、林立する多くの旗・幟の中で、夜でも昼でもひととき目立つ。この幟を多くの集会参加者はみつめて通り過ぎる。話しかけ、質問してくる若い女性や年配者もいて、リーフレットを渡しあるいは、口頭で説明することもあった。

憲法記念集会では「真相を広める会」事務局に用意していただいたリーフを昨年と今年、大量に配布した。特に、5月28日の「しんぶん赤旗」に、北海道の「考える会」の代表理事・山本玉樹氏の談話「戦前・軍機保護法 無実の罪で学生逮捕ー『宮澤・レーン事件』の教訓をいまー『共謀罪』重なるねじ曲げ」が掲載されたこともあり、「新聞で読みました」と声をかけてくる人もいた。

事件の周知度が一定程度進んだかとも思うが、なお大海の中の数滴でないかとも思う。

### 北大OB・OGのつどいで今後の方針を確認

今年2月22日、宮澤弘幸墓参の後、「北大OB・OGのつどい」を開催し、世話人が「活動の継続と拡大のための提案」として、①世代を超えて「宮澤・レーン事件」を継承するため若い世代への働きかけを行う。②毎年宮澤の命日の2月22日に常圓寺にて墓参・会合を持つ。事件発生日の12月8日には、「会報」を出すほか必要に応じ会合を行う。③事件に関する大学当局への働きかけ、大学関係者との関係作り、在校生への参加働きかけ等の活動は札幌が主となるので、「考える会」の活動を支援していく。④「広める会」は「事務局たより」と同会ホームページで北大OB・OGへの情報提供や投稿掲載等に協力するとしているので、これを活用していく。⑤在京OB・OG等との連絡は、当面は今回の世話人2人(村瀬、泉)が担当する。連絡先を世話人まで連絡されたい(取扱は厳重管理)——ことを提案し承認された。(事務局たより)第10号参照)

### 共謀罪廃止・安倍政権打倒へ一幟を高く掲げて

「共謀罪法」は、6月14日深夜、参院法務委員会審議を一方向的に打ち切り、本会議採決に「中間報告」として持ち込み採決するという、議会での慎重論議を無視・封殺する「安倍・自公政権」の暴挙、内容的には警察・治安当局による監視・密告社会の促進で戦時体制への歩みを可能にするものとして、「成立」した。

都議会選挙を前にして、担当の法務大臣ですら法案の中身を説明できない(アイマイ点・不明点・疑問が余あまりにも多いので理解できず、説明できないのは正直な話だ)法案であった。それだけに警察に委ねられると勝手な法解釈・適用がまかり通る危険がある。安倍政治への怒りとともに、「共謀罪」法の適用の監視・阻止、廃止への闘いが高まるのは必至である。

### 「市民+野党共闘」の模索・実現続く

都議選での自民の敗北とその後の内閣不支持の拡大は、共謀法「成立」への暴挙、モリ・カケ問題をふくむ安倍首相とそのお友達による傲慢と行政の私物化、国民世論の敵視への都民の判断と傲慢への対応である。マスメディアは小池・都民ファーストと自民の対立を伝えるが、都民ファーストの新代表・野田数(小池百合子の秘書)氏が大日本帝国憲法を称揚し、国民主権を敵視する人物であることを伝えてない。都民ファーストの都議全員、そして都民ファーストに票を投じた都民が、これらをしっかり知っているとは思われない。国政進出となれば、公明をはさんで安倍自民と融合して憲法改悪をめざすこともありうる。

一方で、都議選での北区や北多摩2区での部分的野党共闘の成功に注目すべきだろう。北多摩2区(定員2)では生活者ネットの山内玲子氏を共産・民進・都府が押して自民を落とし、北区(定員1減で3)では、宮澤事件の集まりにも参加している曾根肇(北大・理)が、自由党の山本太郎氏の支援をえて、都議会自民党幹事長を落としたのであった。総選挙に向けて「市民+野党共闘」の模索・実現をめざす努力は、紆余曲折をはらみながら、各地で粘り強く進められている。

共謀罪適用阻止・廃止、安倍内閣打倒に向けて、宮澤弘幸の幟を掲げての闘いはなお続く――。



7.19 安倍内閣退陣要求国会議員会館前集会

安倍内閣は、依然として衆参両院3分の2議席確保をテコにして、暴走総仕上げとも言える憲法改悪意図を剥き出しにしている。都議選逆風、支持率低下があっても来年12月までは政権を維持し続けて国民に牙を向けてくる。

安倍内閣を退陣させる運動は正念場だ。ウソと奢りの政治を変えよう。憲法前文がうたう「人類普遍の原理」「政治道德の法則」を再確認しよう。そこから「崇高な理想と目的を達成」しよう。

暑い夏。がんばろう！  
(福島 清)

## 安倍内閣 退陣!

7.11 共謀罪法施行抗議国会議員会館前集会



### 千代田区から「戦争法反対」を訴え続ける

安保法制（戦争法）に反対する、民進・共産・無所属の千代田区議会議員6人の呼びかけによってつくられた「戦争させない千代田の会」の24回目の宣伝行動が、7月12日夕方、神保町の交差点で行われました。

先の都議会議員選挙では、この議員を中心に、超党派候補者を擁立してたたかいました。選挙戦では敗れましたが、今回は共謀罪廃止を訴えました。学生を含め交代でマイクを握り、戦争につながる戦争法と共謀罪を廃止させようと訴えました。真夏の暑さにもかかわらず48人が集まり元気よく訴えました。これからも訴え続けます。（水久保文明）



## 植村裁判・札幌 第8回口頭弁論

植村裁判札幌訴訟の第8回口頭弁論は、七夕の7月7日15時30分開廷しましたが、今回は、裁判長が双方の弁護士と今後の進め方について書類上の確認を行い、双方了承のもと次回日程を9月8日と決め、10分程度で閉廷しました。この日の札幌は30度を超え暑い一日でしたが、傍聴席71に対して78人が参加、抽選となりました。

この後、時間を少し繰り上げて教育文化会館で裁判報告会が開かれ、事務局長の小野寺弁護士から「これまで8回の口頭弁論で主張整理を行ってきた。今後は証人尋問から判決となる。第1の双方の主張は整理段階にきているので、今後は第2段階の証人尋問となる。年度内判決へと持っていきたい」と報告がありました。引き続き裁判を注目していきます。（根岸正和）

## 植村裁判・東京 第9回口頭弁論

植村裁判東京訴訟の第9回口頭弁論は、7月12日15時から東京地裁103号法廷で開かれ、96の傍聴席は少し空席でしたが、新聞OB約10人が傍聴しました。

神原元・弁護士が第7準備書面に基ついて、「植村記者は記事を捏造したと批判しているが、西岡氏は慰安婦であることを訴えた金学順さんを一度も取材していない」と、捏造攻撃の不当性を具体的に指摘しました。次回は10月11日15時です。

参院議員会館での報告集会で、神原弁護士は「主張はほぼ出尽くした。来年早々に証人申請を行い、春以降証人尋問となるだろう」と見通しを説明しました。

この後、菱木一美・元共同通信論説副委員長が「緊迫する朝鮮半島と植村裁判の意味」と講演。韓国の原爆被爆者の惨状を報道した平岡敬・元中国新聞記者(後に広島市長)の活動を紹介し、「植村さんの慰安婦報道は、平岡さんと共通する確かな歴史意識に裏付けられている。文在寅・韓国新大統領の誕生は、朝鮮半島が歴史的な転換期を迎えている」と提起しました。

植村さんは、韓国カトリック大学で教鞭をとると同時に、ジャーナリストとしても活躍しています。1987年の民主化以降の韓国の動向を踏まえて取材している最新の韓国情報は、「植村裁判を支える市民の会」のブログ(<http://sasaerukai.blogspot.jp/>)の「植村隆のソウル通信」をご覧ください。（福島 清）

### 「北星学園大学バッシングー市民はかく闘った」

2014—2016「負けるな北星!の会」記録が、パンフレットになりました。

植村さんと北星学園に対する脅迫と嫌がらせを繰り返した不当な攻撃に対して「私たちも北星だ」と立ち上がって闘った記録です。

1冊500円。事務局までお申し込みください。

## <コラム> 冤罪忘れるな!⑭

### 夏休み労働実習に奔

1939年7月21日～8月9日

宮澤弘幸は北大予科3年次の夏休み、学生課の斡旋で数人の学友と共に旧樺太大泊町(現ロシア領サハリン)の旧海軍工事現場(要港整備)で労働実習(勤労奉仕)に入った。写真はそのときの記念だが、この間の見聞や体験をレーン夫妻に話したとされ、軍事機密の探知・漏泄だと断じられた。狙われたが最後、何でも口実(罪)とされる国家冤罪の陥穽が見える。



宮澤弘幸は、この夏に限らず、講義以外の時間を努めて課外活動に充てていた。山に登り、アイヌの集落を訪ね、灯台船に便乗して海に学び、感性と知性と体力に磨きをいれている。目指すは電気技師ながら人間の礎は広く深くと心がけた。上告趣意書は「将来大ニ為スアルニ足ル者ナリ」と述べ、情状酌量を求めているが、国家権力は、その将来を陥穽によってことごとく潰し、27歳を一期に事実上の獄死にまで強いた。

◆ ◆ ◆  
「スパイ冤罪事件」の真相に迫る決定版(本会編)

『引き裂かれた青春—戦争と国家秘密』花伝社刊

第1部=冤罪の真相、第2部=冤罪事実の条条検証資料編=判決全文、軍機保護法全文、年表  
特別添付=重要事項索引(別冊)

申し込みはFAX・メールで本会事務局まで(1面上部題字横に掲載)。送料税込み2300円。後払い。

【事務局から】労働者教育協会編集の「学習の友」8月号の「特集・自由と民主主義を求める不断の努力—戦前日本社会の教訓と監視社会化とのたたかい」に「青春を引き裂いた弾圧—北大生・宮澤弘幸スパイ冤罪事件」と題して寄稿しました。「学習の友」とは毎日新聞社が有楽町にあった1960年代以来の久しぶりの出会いです。「学ぶことは生きる力」を掲げて、憲法の平和・人権・民主主義を守り発展させるために、困難を乗り越えて、誠実に愚直に発行を続けていることに、清々しさを感じました。大拍手です。（福島 清）